



# 妙高

妙高市立妙高中学校

学校だより 第45号

平成28年月5日

携帯電話用QRコード



## やればできる、やったらできた

校長 橋立 英基

今年度も県教委によるWeb配信診断集計システムの第1回問題に取り組みました。

昨年度は「県平均正答率を実施回数の8割以上で上回る」という数値目標を立てましたが、結果は惨憺たるものでした。基礎的・基本的な知識・技能がほとんど定着していないことに危機感を覚えずにはいられませんでした。例えば「 $y$ は $x$ に反比例し、 $x=2$ のとき $y=4$ です。 $y$ を $x$ の式で表しなさい。」という問題の正答率は1月の時点で41.4%とすでに5割を下回っていましたが、翌月2月に出题された全く同じ問題の正答率は25.8%（県平均正答率58.1%）で4人に1人しかできない、という衝撃的な結果となりました。「知識の剥落現象」そのものです。

そこで今年度は「確かな学力の育成」に主眼を据え、Web配信診断問題への取組にも職員の創意が生かされました。Web配信週では7限を設け過去の類似問題に取り組む、正答率の低い問題は授業中にしっかりと解説を加える、全教員が生徒の学力実態を把握するためにWebへの得点入力は学年部が行う、結果を学年だより等で保護者や生徒と共有する、正答率の低い生徒には放課後個別指導を行う、等々です。

その成果は予想以上のものでした。昨年度は県平均正答率を10ポイント下回る問題はあっても10ポイント以上上回る問題はほとんどありませんでした。3年生の英語では10問中9問で10ポイント以上上回りました。残り1問はというと正答率は100%でしたが、県平均が90%を越えていたため10ポイント上回ることは物理的に不可能、というものでした。正答率が100%ということは、3年生全員が一人も間違えることなくできた、ということです。それが10問中2問ありました。3年生全員と握手をして喜びを分かち合いたいところです。昨年度数学に苦しみ続けた2年生でも、県平均を10ポイント以上上回る問題が4問もありました。1年生では100%正答率の問題が国語で2題、数学で3題、計5題もありました。「やればできる」という仮定が「やったらできた」という結論になりました。

しかし、私たちが目指すところは日常の授業での基礎的・基本的な知識・技能の定着です。ドリルやパンプラクティスだけでは知識の剥落現象は防げません。人は本来、自分が興味をもった問題や解決すべき課題のために必要な知識・技能を求めます。知識・技能を実際の場面で使うことによってそれを定着させていきます。そんな授業の実現に向け、これからも「確かな学力の育成」に取り組んでいきます。

## 【きらり輝く生徒の瞳 フォトギャラリー】 ～生徒の活躍を紹介します～



竹の子狩り遠足(5月13日)

みんなで取った竹の子を、料理し竹の子汁を作りました。



避難訓練・防災教室(5月18日)

3年生: 消火訓練(放水体験や消火器体験)



2年生: 災害時の対応



1年生: 濃煙体験

<佐藤>

